

# CPR in school インストラクターコース

【JESAの取り組み：学校教育における心肺蘇生法教育の  
在り方】

# JESA BLS普及委員会の位置づけ

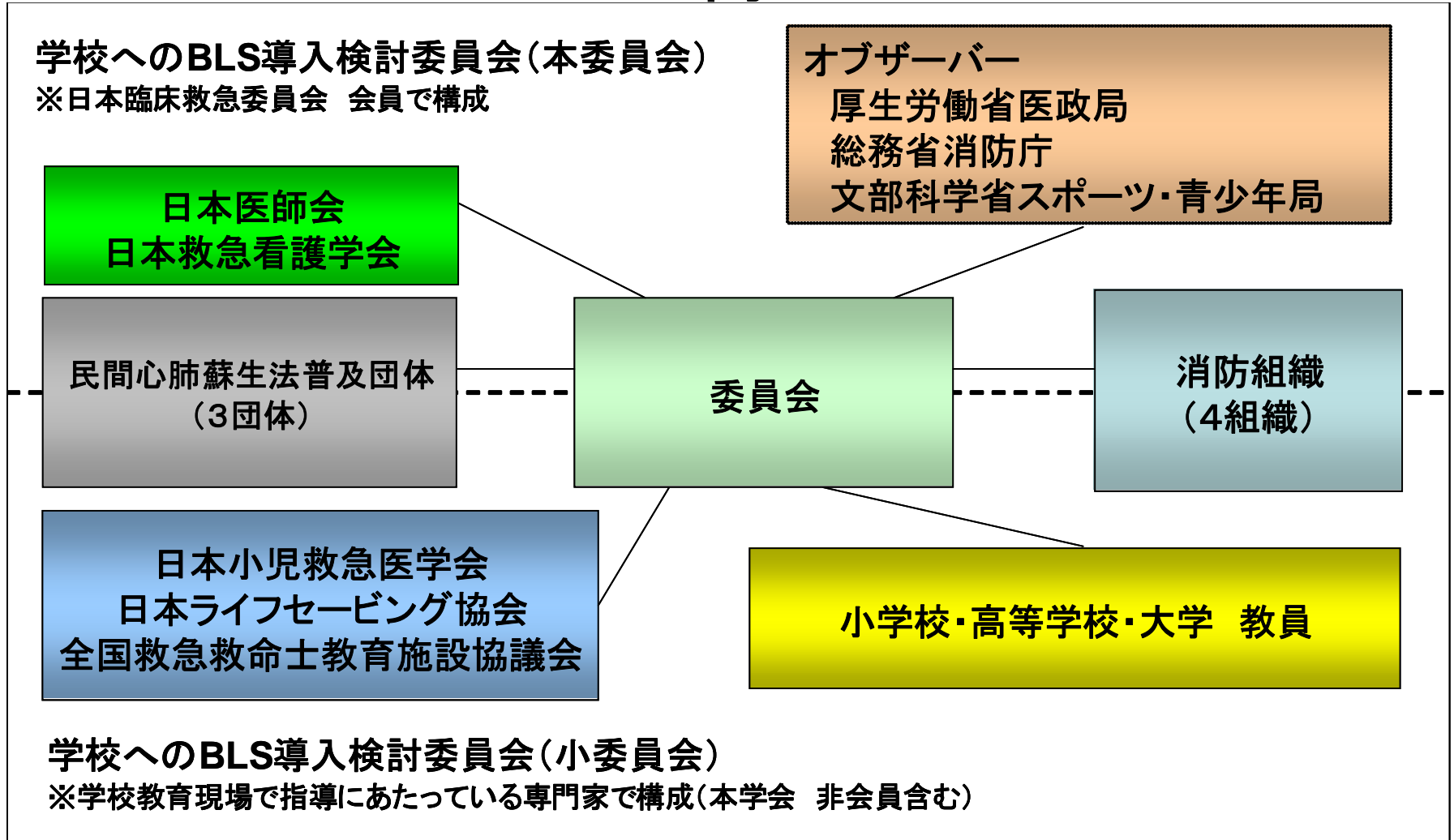
JESA事業部会 BLS普及委員会では、国民全体が心肺蘇生法を実施できるような社会を形することを目標として、日本臨床救急医学会の委員会事業である「学校へのBLS導入検討委員会」と共同して学校への心肺蘇生法教育を展開している。

この委員会では、小学校・中学校・高等学校などで心肺蘇生法の理解を深め実践する能力を育成するために、生徒の集中力や、学年による学習形態の特性や学校の授業時間を勘案した学校内における心肺蘇生法講習のあり方を討議した。

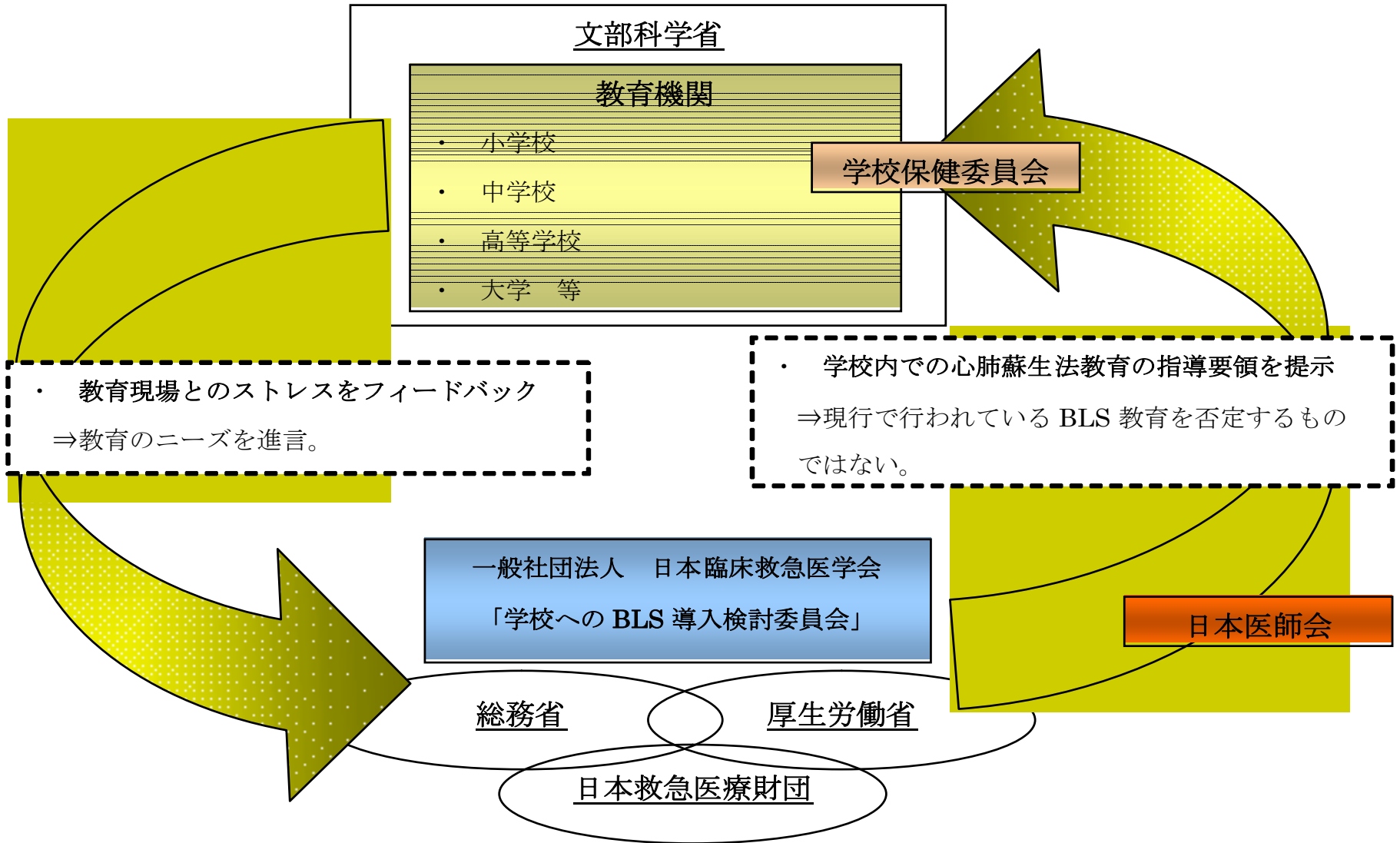
その結果、消防機関やBLS指導者、さらに学校専門家の意見を取り入れ、45分または90分程度で心肺蘇生法を実践できる指導コンセンサスの作成を行なった。時間を短くすることが主眼ではなく、学校の生徒ひとりひとりに心肺蘇生法を理解させ、いざという時、心肺蘇生法を実践できることが最終目標である。

※すでに学校内において、創意工夫のもと心肺蘇生法の教育を実践されている場合には、本委員会のコンセンサスはそれを否定するものではない。

# 日本臨床救急医学会BLS委員会の体制



# 日本臨床救急医学会 学校へのBLS教育導入検討委員会



これ以降は国士館大学の取り組み  
小中高にいれる

# 学校保健委員会

学校側	家庭側	地域側	児童(生徒会)側
<ul style="list-style-type: none"><li>・校長</li><li>・保健主事</li><li>・養護教諭</li><li>・体育主任</li><li>・安全主任</li><li>・給食主任</li><li>・保健教育担当教員</li><li>・一般職員</li><li>・栄養職員</li><li>・学校三師 学校医 学校歯科医 学校薬剤師</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・PTA代表</li><li>・PTA保健委員</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・教育委員会代表</li><li>・保健所代表</li><li>・民生・福祉関係 代表</li><li>・その他の地域の 組織代表</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・児童会(生徒会) 代表</li><li>・児童会(生徒会)</li><li>・保健委員会代表</li></ul>

## 学校保健委員会の目的

- ・健康問題を研究協議し、組織的に健康教育を推進し、運営の強化を図る。
- ・校内協力体制をとり、外部の専門家の協力を得る。
- ・家庭や地域社会の教育力を充実させる観点から、学校保健委員会を家庭や地域社会を結ぶ組織として機能させる。

# 保健学習の内容

小学校(体育科保健領域)		中学校 (保健体育科保健分野)	高等学校 (保健体育科保健)
3・4学年	5・6学年	1・2・3学年	1・2学年
8単位時間程度	16単位時間程度	48単位時間程度	70単位時間
健康の大切さと健康に良い生活の仕方(3学年)	けがの防止と簡単な手当(5学年)	心身の機能の発達と心の健康(1学年)	現代社会と健康 健康の考え方、健康の増進と疾病の予防(生活習慣病、喫煙。飲酒・薬物乱用)、精神の
体の発育、発達(4学年)	心の発達と不安、悩みへの対処(5学年)	健康と環境、傷害の防止(2学年)	生涯を通じる健康 生涯の各段階における健康(思春期、結婚生活、加齢)、保健・医療制度および機関
	病気の予防(6学年)	健康な生活と疾病の予防(3学年)	社会生活と健康 環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康

# 安全教育プログラム（平成21年3月）

危険を予測し回避する能力と、他者や社会の安全に貢献できる資質や能力を育てる教育

小学校		中学校	高等学校
中学年	高学年		
簡単な応急手当(生活)	学校で生活での事故 (生活)	熱中症の予防(生活)	救急救命講習
防災マップ作成(災害)	交通事故が起きた時の対応 (交通)	交通事故の対応と応急手当 (保健・学級活動)	消防団との連携
けがをした人を発見した時の通報(災害)	けがと応急手当 (保健・学級活動)(災害)	応急手当の実際(生活)	AEDの使用方法の習得
		救急救命法講習 (総合的な学習の時間)	救助を支える体制づくり (学校行事)



# 学年別到達目標(案)

		小学生 低学年	小学生 中・高学年	中学生	高校生
教育到達目標	大項目	自分の身の安全、応援要請に重点を置く。	低学年と大きくは変わらないが、胸骨圧迫をより確実なものに近い形で実施することが出来るようにする。	小学生よりも確実に胸骨圧迫、AEDが使用できるよう重点を置き進行する。	心肺蘇生法を実施する理由のバイスタンダーの必要性、重要性を理解させる。確実なバイスタンダーを育成する。
	小項目	<p><b>1、自分の身の安全を確認出来る。</b></p> <p><b>2、応援要請が出来る。(大人を呼びにいける)</b></p> <p>3、学校や自分の家の近くのAEDの場所を把握することができる。</p> <p>4、救急車は何番に連絡すればよいか理解する。</p> <p>5、AEDをとりに行くことが出来る</p>	<p>1、自分の身の安全を確認出来る。周囲の安全確保を確認出来る。</p> <p>2、倒れている人に呼びかけてみる事が出来る。</p> <p>3、応援要請が出来る。</p> <p>4、学校や自分の家の近くのAEDの場所を把握する。</p> <p>5、119番に連絡した場合、自分のいる場所を伝えることが出来る。</p> <p>6、呼吸をしているか確認できる。</p> <p><b>7、心臓がある場所を理解する。</b></p> <p>8、AEDの使い方を知る。</p>	<p>1、自分の身の安全を確認出来る。周囲の安全確保を確認出来る。</p> <p>2、倒れている人に呼びかけてみる事が出来る。</p> <p>3、応援要請が出来る。</p> <p>4、学校や自分の家の近くのAEDの場所を把握する。</p> <p>5、119番に連絡した場合、自分のいる場所を伝えることが出来る。</p> <p>6、呼吸をしているか確認できる。</p> <p>7、心臓がある場所を理解する。</p> <p>8、胸骨圧迫を実施できる。</p> <p>9、交代しながら胸骨圧迫をする。</p> <p><b>10、AEDを使用することが出来る。</b></p>	<p>1、自分の身の安全を確認出来る。周囲の安全確保を確認出来る。</p> <p>2、倒れている人に呼びかけてみる事が出来る。</p> <p>3、応援要請が出来る。</p> <p>4、学校や自分の家の近くのAEDの場所を把握する。</p> <p>5、119番に連絡した場合、自分のいる場所を伝えることが出来る。</p> <p>6、呼吸をしているか確認できる。</p> <p>7、心臓がある場所を理解する。</p> <p>8、胸骨圧迫を実施できる。</p> <p>9、交代しながら胸骨圧迫をする。</p> <p>10、AEDをとりに行くことが出来る</p> <p>11、AEDを使用することが出来る。</p> <p><b>12、実際のバイスタンダーとして、活躍できるようになる。</b></p>

# 学校内における心肺蘇生法講習会時間割の例

例1 45分コース	
開催の挨拶	1
心停止からの生還者メッセージ	9
導入講義	5
簡易講習:心肺蘇生法	11
簡易講習:AEDの使用	15
自施設のAEDの確認(AEDの選択)	3
質疑応答	1
合計	45

(分)

はDVD共覧のみ

はDVDを見ながら実習

例2 90分コース	
開催の挨拶&はじめに	1
一時間目 心停止からの生還者メッセージ	9
なぜ命は重要か?	
導入講義(DVD)	15
命の重要性(まとめ)	5
休憩	
蘇生訓練人形の準備	5
心肺蘇生法(胸骨圧迫)	10
二時間目 心肺蘇生法(応援要請、呼吸の確認)	5
AEDの使用	10
自施設のAEDの確認(AEDの選択)	10
シナリオトレーニング	10
命の重要性についてのまとめ	5
質疑応答	5

(分)

例3 180分コース	
一時間目 開催の挨拶&はじめに	20
救命の連鎖の重要性	
心肺蘇生法(意識の確認、早期通報、気道確保)	10
心肺蘇生法(人工呼吸)	15
休憩	
二時間目 心肺蘇生法(胸骨圧迫)	15
デモンストレーションによるCPR	10
AEDの使用法(説明)	20
AEDの使用法(展示など)	
休憩	
三時間目 AEDの実技	45
休憩	
四時間目 シナリオを使ったトレーニング	40
質疑応答	5

合計

180  
(分)

※時間はあくまで目安

※このタイムテーブルは一例に過ぎない